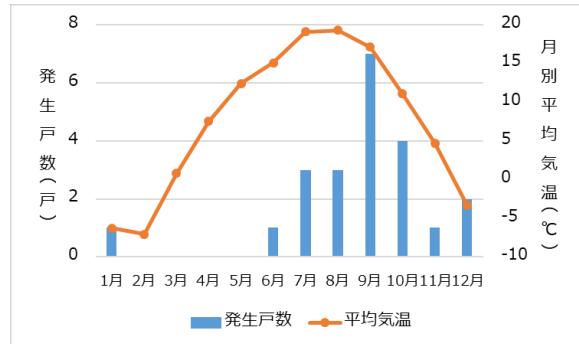


農場の衛生管理について

これからの時期は疾病に要注意

昨年(2018年)の十勝管内におけるサルモネラ症発生戸数と月別平均気温を図1に示しました。暑さのピークが過ぎた9~10月にかけてサルモネラ症の発生戸数が増加しています。

今から農場の衛生管理を見直して疾病を予防しましょう。



(図1) H30 十勝管内サルモネラ症発生戸数と月別平均気温

(データは気象庁(帯広観測点)・十勝家畜保健衛生所 HP より)

今日からできる対策は？

■農場の出入りに消石灰を散布しましょう ~病原体を持ち込ませない~

農場には日常的に様々な人や車両が出入りします。そのタイヤから農場内に病原体が持ち込まれることを防ぐため、農場の出入り口には消石灰を散布しましょう。

散布量は**0.5~1kg/m²**が目安です(写真1)。大型のトラックでもタイヤ全体に付着するように横幅**3~4m**、奥行き**3~4m**の範囲に散布しましょう(図2)。

1kg/m²の消石灰は長靴やタイヤの跡がくっきりと付き、地面が見えないほどの量です。

散布の頻度については少なくとも週1回、雨や強風の後地面やアスファルトが見えてきたら速やかにもう1度散布するようにしましょう。

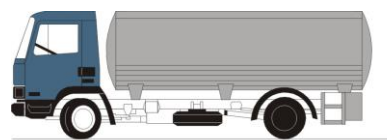
■踏み込み消毒槽を設置しましょう ~病原体を広げない~

農場内に病原体を広める原因は、主に人の足(長靴)によるものです。以下の3つのポイントを守って、踏み込み消毒槽を設置しましょう。

- ①長靴についた土や糞尿は消毒効果を低下させるため、汚れを十分に落としてから消毒を行う。
 - ②消毒効果を維持するため、消毒液は汚れたらすぐに交換する(少なくとも1日に1回以上)。
 - ③処理室など農場内の1カ所だけでなく**施設毎**に設置する。
- これらの対策を行うことで恐ろしい疾病から牛たちを守ってあげましょう。



写真1:1kg/m²の石灰ベルト



石灰は、タイヤ径の3~4倍が必要です。

図2:石灰ベルトの奥行きとタイヤ径



写真2:汚れ落としのシャワーと消毒槽